

「けんけん合」は
「けんけん合」です！

高橋電設運送株式会社 の巻

(習志野市)



私たちの日常生活を一変させた
新型コロナウイルスの感染症法上の



▲高橋社長(右)と久保所長

分類が緩和され迎えた新しい年は、
長かった閉塞感から解放された、
ようやく笑顔に満ちた日々が戻っ
てきたと喜んだ矢先、能登半島地
震や航空機事故により、波乱の幕
開けとなつてしまいました。

犠牲となられた方々には心から
お悔やみを申し上げ、被災された
方々には心よりお見舞い申し上げ
ますとともに一日も早い復旧・復興
を切にお祈りいたします。

★★★

物流2024年問題は 地位向上のチャンス

話題は「物流2024年問題」
に移りました。

お考えをお聞きすると、「ポジテ
ィブに捉えています」ときっぱり。
メディアによる運送業界のイメー
ジダウンとなるような報道に疑問
を感じているようですが、「今回の
法律改正は、ドライバーの働き方
改革や賃金の改善が魅力につな
がり、今まで運送業界に興味のな
かった人から注目が集まることで業
界の地位向上につながる」と、悲
観的ではなく、前向きな感想で
す。同問題は、運送業者だけでな
く荷主にもさまざまな課題が課さ



▲サバイバルゲームを楽しむ高橋社長

る環境づくりに努
めているそうです。
加えて、「Face
To Face」を前提に、
ドライバーとの向
き合い方を大事に
し、「現場から戻っ
てきた社員の表情
を見逃さないよう
にしています」と話
されました。また、

暖冬といわれて久しいですが、特
に今年1月の気温は桜が咲くころ
のように暖かい日もありました。反
して、本来の寒さとなった2月2
日、第82回目の事業所訪問先は、
習志野市に本社を構える高橋電設
運送株式会社(高橋佑介社長)の
営業拠点である、千葉市花見川区
の本社営業所です。

月に現在の社名に商号変更。昭和
63年4月には電気工事関係を分離。
高橋社長は、先行き不透明なコロ
ナ禍のさなか、令和2年8月、3
代目として社長に就任されました。
現在の業務内容は、先代の事業を
継承した、住宅用資材である仮設
足場材、住宅用木材、建設資材な
どの運送と、高橋社長が将来を見
据え、新規事業として開拓した関
東近郊の大手スーパーへの冷凍・冷
蔵商品の配送です。

売り手・買い手・世間の 「三方よし」を念頭に

同社は、白壁のモダンな平屋建
ての外観で、瀟洒で住み心地のよい
一戸建て住宅のようにも見えます。
久保所長の出迎えを受け、高橋社
長も加わって取材を開始。まずは、
同社の社史について伺いました。

今後の事業展開をお聞きすると、
「新規顧客の開拓、経営者の育成に
よる事業の分社化、経営の効率化、
有事に備えたリスク分散で会社が
健全であること。そのことが、社員
とその家族の生活の安定につなが
ります」と断言されました。また、
「トラックは公道をなりのわいの場と
してはいます。道路に停車して作業
する際は通行の妨げになる場合も
あり、売り手よし、買い手よし、
世間よし」の『三方よしの考え』
を念頭に置いています」と話されま
した。

高橋電設運送の前身は、昭和37
年4月に初代が個人事業として開
始したもの。昭和40年4月に高橋
電設有限会社を設立し、電柱の運
搬を開始されました。昭和53年10

健全経営を基盤に、高橋社長が
思い描く将来ビジョンの実現はそう
遠い将来ではないことを私たちは
確信しています。

れますし、そのことに伴い、社会の
考え方にも変化を感じているとの
こと。

私たちトラック健保も業界に携
わる立場として、今後の動向に注
視してまいります。

現場第一主義で 働きがいのある職場に

続いて、社員教育などについてお
伺いました。

高橋社長は「現場第一主義」を
掲げています。つまり、上層部の意
志決定に従って行動する「トップダ
ウン式」ではなく、現場で抱える
問題や課題を自主的に改善するこ
と。ドライバー一人一人が、社員と
して誇りを持って「働きがい」のあ
る環境づくりに努
めているそうです。

野山を駆け回り ストレスを発散

最後に、健康管理や休日の過ご
し方と、健保組合へのご意見を伺い
ました。

高橋社長は、健康維持のために
栄養バランスを考慮した食事を意
識しているとのこと。また、運動は
趣味のゴルフと、最近では、社員の
紹介で始めた「サバイバルゲーム」。
日々、経営のことが頭から離れない
そうですが、「ゲーム中は相手に勝
利することだけに没頭して野山を
駆け回り、ストレスを解消していま
す」と話されました。久保所長も
親戚所有の山の手入れを行い、心
身ともにリフレッシュしているそう
です。お二方とも自然の中で日頃の
ストレスを上手に解消している様
子。私たちが想像する以上の重責
を担っていることと思いますが、こ
れからも健康には十分にご留意く
ださい。

同社は、求人ツールとして積極
的にSNSを活用し、仕事内容な
どを発信しているということです。
また、業務のデジタル化にも関心
をお持ちのようで、「健保組合にお
いてもデジタル化を推進し、引き続
き組合員に有益な情報の発信をお
願いします」とのご意見をいただき
ました。



同社のロゴマークの
由来は、2代目社長
の何気ない一言に初代
社長がヒントを得た
もので、高橋の「T」に、電気関係
で事業を開始したことから電気を
モチーフにした稲妻マークをデザイ
ンしたそうです(写真)。左右2つ
ある稲妻マークは、右が「S」、左
が「Z」に見えることから、SAF
ETY(安全)とZ EAL(熱意)
を社風とし、「社員が安全第一に気
を配り、何事にも熱意を持って取
り組む会社」を一丸となって追求し
続けるそうです。

高橋電設運送のますますの発展
を祈念いたします。

★★★

高橋社長はじめ、従業員の皆さま、
ご協力ありがとうございました。